



ID番号	キャンプに参加させて良かったこと
1	キャンプに参加したことにより他校のお友達と仲良くなり、交流が増えた
2	夏休みに入っても外で自由に遊ばせる事が出来ず、ストレスもあったと思いますが、キャンプに参加する事で発散する事が出来たように思います。ありがとうございました。
3	毎年、新地小では5年生で2泊3日の宿泊活動、相馬と新地での音楽祭がありましたが、今回の震災の影響で中止になりました。放射能を心配する親も多く、水質には問題なかったのですが、プールも中止に(新地小)。長野キャンプに参加して、笑顔で「楽しかった。また行きたい」と何度も言っています。色々な経験をして、楽しい思い出ができて、本当に良かったです。
4	原発事故があってから、区域外就学しておりましたが、室内での活動ばかりでした。今回、キャンプから戻った時の顔はとても生き生きとした表情で、参加させて良かったと思いました。
5	新地小からの参加者の中に女子がいなかったそうですが、他校の方とも友達になれて楽しかったそうです
6	家庭外でのルールを守り生活(集団行動)した事で友達への思いやりが出来てきました。
7	思い出作りができたことです。とにかく震災と原発では子供に過多のストレスをあたえてしまった気がします。また夏休みも遠出できずにおりましたので、長野へのしかもおやから離れてキャンプ初体験は素晴らしい思い出になりました。今でもふと思い出したことを昨日のこのように語ってくれますよ(´u`)♥自信がついたことも素敵なプレゼントです!!
8	しばらくの間、自分の事と家で手伝いをするようになった。
9	震災の影響で外でも遊ばず、ストレスを抱えている様子でした。そのために、おもいきり外で遊んで欲しかった。
10	同じ子どもたちと一緒に生活でき、楽しかったと思います。今年は子供たちが遊べる時があまりなく、室内で遊んでいたのが良かったと思います。



ID番号	キャンプに参加させて良かったこと
11	帰ってきて、毎日どんなふうに過ごしていたかを、とても楽しそうにいきいきと話す娘の顔を見て、参加させて良かったと心から思いました。自立心がめばえました。自分のことはしっかりと自分できるようになりました。
12	少しでも放射能からはなれることができ、良かったです。
13	湖での水遊びなどとても楽しい夏休みを過ごす事が出来て感謝してます。本人もとても楽しかったそうで、帰りの車の中、布団の中では別れがつかく泣いてました。精神面でとても大人になりました。
14	みんなと食べる食事はおいしかったようで、家では食べない野菜をおいしくいただいたそうです。
15	グループのみんなと仲良く出来たし、帰ってからは家でのお手伝いをがんばるようになった。
16	他校の子供たちとの交流や、大自然の中での過ごし方を覚えられたこと
17	少しだけだが、やる気がみられていた
18	自分で気持ちの整理、切り替えが少しできるようになっている。
19	子供の、子供らしい笑顔を取り戻すことができました。このキャンプに参加させて頂いて、本当に良かったと思います。子供にとって、大自然でおもいきり遊ぶことの大切さを実感しました。本当にありがとうございました。
20	元々、自然の中で遊ぶのが大好きな子なので、震災後、のびのびと外で遊ばせる事が出来ず、今回のキャンプではとても楽しい経験が出来たようで、本当に良かったです。また、出産してから、4日間も離れた事がなかったので、お互いが成長出来たようです。
21	新地にいると、外で思いっきり遊べないので、長野にいて外でおもいきり遊べて良かったと思います
22	夏休みなのに外遊びもできず、プールにも入れず、かわいそうに思っていたところ、今回の企画に参加させて頂き、楽しい思い出をつくる事ができて、本当に良かったです。「原発」「放射能」を全く心配しなくてよい、すばらしい環境の中で遊ばせてもらい、親としても安心して待つことが出来ました。何より、本人が「楽しすぎて、家の事忘れていたよ～」なんていうくらい、楽しかったようなので、本当に良かったです
23	
24	



ID番号	キャンプに参加させるにあたって、困ったことや心配だったこと
1	
2	ケガなどしないかや、友達と仲良く過ごせるかなど
3	夏休みも後半になるにつれ、不安になってきたのか、「行きたくないかも…」とっていたので、5日間楽しく過ごしてこれるのか心配でした。でも、『申し込んだのだから行きなさい』と言って送り出したので、帰って来た時の笑顔を見て安心しました！！
4	集団の中にとけこめるか、楽しく過ごせるかなどが心配でした。
5	親の方が心配していたが本人はだれとでも友達になれるからその点は心配する事ないと行く前から言っていたので、心配しなかったし楽しい旅だったようです
6	参加させるに当たっては特に困ったことや心配だった事はありませんが、帰ってきてから上級生の影響で言葉使いが悪くなったと言われました。
7	東日本大震災の余震が心配でした。全国的に地震が多いことが離れるにあたっては一番の不安でした。また、実際出発の日もおそらくみんなが大宮をたつてすぐこちらでは大きい余震があり、津波警報が出てしまいました。(実際津波は来なかったのですが) そのことは「心配するだろうから知らないでいてほしいな。知らせないでもらいたいな」と思っていたので、そうしていただき、ご配慮に感謝しておりました。
8	今回の原発事故にて、福島県人だといういじめが心配だったのと、皆と仲良くし、協力しながら出来るかどうかです。
9	
10	



ID番号	キャンプに参加させるにあたって、困ったことや心配だったこと
11	一人っ子で、ひとみしりな所があるので、初対面の人（特に年上の方）とうまく接することができるのか不安でした。
12	他の子と仲良くできるか心配でした。
13	子供だけの宿泊は2回目でした。着替えや汚れものの片づけなど心配しましたが、親がおもってる程心配いりませんでした。
14	前もって説明会がありましたが、出席出来なかったので、どのようなキャンプになるのかとても心配でした。
15	一人で単独行動をするんじゃないか、と不安だった
16	他校生と仲良くできるか、すぐ、おこったりしないか心配だった事
17	気に入らないことがあると自分のからにとじこもってしまうこと
18	緊張するとトイレがひんぱんになってしまうこと
19	大震災、放射能、次から次へと災害があり、その後地震もあったので、子供と離れて過ごすのが親としてとても心配でした。
20	出発当日に福島県で震度5弱の地震があり、子供達は無事なのかどうかとても心配でした。4泊5日の間に一度でも良いので、自宅に電話できる時間があれば、安心できたかなと思いました。
21	少しわがままな所があるので、みんなと生活できるか不安でした。
22	4泊5日という日程が、少し長いかな…と心配しましたが、本人は「もっと遊びたかった」と言っていました。余震を心配していたところ、本当に大きめの地震が来たので、子供たちが大丈夫か、新幹線が動くのか不安でいっぱいでした。ちょうど移動中の時間帯だったので。
23	家ではのんびりしているので、集団での行動についていけるかが心配でした。
24	



ID番号	主催者（東京YWCA）に伝えたいこと
1	
2	
3	<p>新地町は県内の他の地域に並べ、放射線量は低い方ではありますが、以前の生活にもどりつつありますが、「福島」の悪いイメージはどこへ行ってもついてきます。元気に見えてもたくさんの不安を抱えています。将来、子供達が「福島出身」という事で世間から差別されないようになってほしいと願うばかりです。今回、子供達を招待して下さって、ありがとうございました。感謝の一言です！！</p>
4	
5	
6	<p>夏休みの最後の方だったので、早めに宿題を終わらせる事が出来て良かったのですが、体力的に休める時間が短く疲れが残ったまま学校が始まってしまいました。</p>
7	<p>今回のキャンプはもちろん、新地町災害ボランティアへの参加にしてみただただ感謝するばかりです。もうそれしかありません。本当にありがとうございます！！</p>
8	<p>自然と水遊び、福島では出来ないことをさせてくれて、本当にありがとうございました。原発の事がなければ普通の事が当たり前に行けるのに。素敵な体験をさせてくれて、ありがとうございました。</p>
9	<p>大変子供が喜んで帰宅してきました。ありがとうございました。</p>
10	
11	<p>震災直後は精神的に不安定な状態が続き、夜中に何度も目を覚ましたりと、親としても不安になったりした時期もありました。その後、放射能の影響で、学校行事のほとんどが中止になってしまいました。そんななか、子供たちのためにこんなに素晴らしいプログラムを企画して頂き、心から感謝の気持ちでいっぱいです。</p>
12	<p>このようなプロジェクトを用意して頂き、ありがとうございました。お世話になりました。</p>
13	<p>外で遊ぶことを制限されていたので、マスクなしで遊んだり、お友達、スタッフの皆様とふれあえる企画に感謝しています。</p>



ID番号	主催者（東京YWCA）に伝えたいこと
14	楽しい夏休みの思い出をありがとうございました。
15	
16	今回のキャンプで色々ご迷惑をおかけしました。本人も楽しい思い出がいっぱいできた事だと思います。
17	準備物不十分のまま参加させてしまいご迷惑をおかけしました。今回参加させていただけてとても本人にはいい体験だったようです。ありがとうございました。
18	参加させて良かったです。ありがとうございます。
19	
20	震災後、主人が復旧作業で忙しく、夏休みも長期の休みが取れない状況の中で、長野キャンプという、とても素敵なプレゼントをして頂き、心から感謝しております。また、震災後は地震に脅え、一人で眠ることも出来なくなっていた息子が、キャンプに参加できるのか不安を抱いていましたが、東京YWCA様のスタッフの方々のおかげで、安心して楽しい集団生活が送れたようです。夏休みの楽しい思い出をありがとうございました。
21	とても楽しんでこられたようで、嬉しく思います。ありがとうございました。
22	大変お世話になり、ありがとうございました。子供だけの遠出は初めてだったので、少し不安はありましたが、YWCAさんの主催という事で、安心して参加させる事が出来ました。楽しい思い出を作って頂き、本当に感謝しています。ありがとうございました。
23	このような機会を与えて頂き、ありがとうございました。
24	



## キャンプを終えて

### ●安心と愛情と認めてあげること

久田 満（上智大学総合人間科学部心理学科コミュニティ心理学研究室）

心理学を学んだ者ならだれもが知っている「マズロー博士の『欲求段階説』」という学説があります。批判も多いのですが、私は密かに信奉しています。ごく簡単に説明すると、人間が人間らしく成長するには、ある程度満たさなければならない4つの欲求があり、それらは階層を成しているということです。最もベースにあるのは生理的欲求で食事や排せつのことです。平均的な日本人なら、この欲求が満たされないことは稀です。次が安全への欲求です。これも戦後の日本ではあまり問題にされませんでした。しかし、「3.11」以来、被災地とくに福島県では大きな問題となり、安全が保障されない状況が今なお続いています。

この安全への欲求が満たされて安心感が得られると、次に満たさなければならないのが家庭や学校やコミュニティの人達から愛されたいという欲求です。そして最後に重要なのは身近な人に認められることです。つまり衣食住が足り、愛情に満たされ、周囲から承認・尊重されてはじめて、人は思いやりを持ち、我慢し、誰かや何かのために自己を犠牲にすることができるようになるというわけです。赤ちゃんから児童期、青年期にかけて人はこれらの欲求を徐々に満足させてもらいながら、真の成人になっていくのです。

このように現実には長期にわたる成長のプロセスを数日間で体験させてあげられるのが、今回企画されたような組織キャンプだと思うのです。29人の子ども達の成長を願って、大勢の大人や大学生が何時間も議論して、完璧とは言えないかもしれませんが、4泊5日のプログラムを考えました。おいしい食事が用意されました。そして安全・安心が確保されました。我々、特にキャンプリーダ達は睡眠時間を大幅に削って子ども達を愛し、そして認めてあげました。その結果、確かに子ども達の心には仲間やリーダー達を思いやる気持ちが芽生えてきました。「一緒にやってみようよ」、「私は我慢するから」、「荷物もってあげる」などの言葉を聞くと本当にうれしくなりました。

さて、この先、福島県はどうなっていくのでしょうか？多くの人々が、それこそ自己の危険を顧みず原発の安定化に取り組んでいるそうです。発電所の所長さんは、とうとう体調を崩され入院されました。そう考えると、来年の夏にはサマーキャンプなど企画しなくてもいいような状況に戻る事が理想なのかもしれません。



でも、万が一、まだ安全・安心が保障されない状況なら、来年は今回の反省点を十分に踏まえながら、さらに時間をかけて議論を重ね、もっと人員を増強し、実現させたい。この「新地っ子の夏休み」に参加してくれた子ども達一人ひとりの笑顔を思い出し、にやにやししながら、そう思っています。

● 嶋 結子 (元野尻キャンプディレクター)

被災地の子ども達に、たとえ数日間でも楽しい夏休みを！という願いからはじまったキャンプ計画でしたが、津波を経験している子ども達が、果たして水泳やボートなどの水上プログラムを楽しめるのか、湖畔でのキャンプ生活そのものに不安を感じないかなど、プログラムや生活面に関する不安や心配も多い中でのスタートでした。とはいえ、自然の中に身をおくことの安らぎ感や新しい仲間達との共同生活の楽しさ、ダイナミックでプログラム満載のキャンプだからこそ、子ども達にとって、他の何物にも代えがたい貴重な経験になるはず！キャンプならではの開放感とリーダーや友達との心と心のつながりが、子どもたち一人一人の心と体を、多少でも癒してくれるのではとの強い期待もありました。そして、キャンプ当日、バスを降りてキャンプ場の坂道を歩いてきた元気いっぱいの子どもの姿を見たとき、それまでの心配は吹っ飛び、エネルギッシュな子ども達に圧倒されるばかりで、そのまま、嵐のような勢いで過ぎ去った5日間でした。キャンパー、リーダー、ボランティアなど総勢50名以上が、狭いゆかりハウスにひしめきあって、食事をしたり、遊んだり。水泳、アーチェリー、ナイトハイク、野外料理など、プログラムの数々。食堂を走りまわる子ども達、部屋でリーダーとゲームをして静かに時間を過ごすグループ、外での自由遊びを好む子どもなど、自由時間の過ごし方も、さまざまでした。何よりも、用意されたプログラム以上に、野尻の豊かな自然環境そのものが、子ども達にとっては、大きな魅力なのだということも、改めて実感しました。今回のキャンプについては、準備期間も短く、準備不足だったといえます。事前のリーダー会の回数も少なく、リーダー間での、子どもへの対応、プログラム内容、生活などに関する共通理解とその確認、情報の共有などが不十分のまま、



本番のキャンプに突入してしまいましたが、いざキャンプが始まると、期間中リーダー達の出入りが多かったにもかかわらず、それぞれのリーダー達の力が大いに発揮される場面が続きました。常に子ども達ひとりひとりに寄り添うおうとするリーダー達だったからこそ、子ども達も安心して過ごすことができたといえます。キャンプの中で、私達リーダーが、被災して心に何らかの痛手を受けた子ども達と、どう向き合っていたらよいのかを考える時、子どもに指示的になることなく、いつも子どもをあたたく見守り、寄り添い、子どもを安心させる存在でいることの必要性を感じざるを得ません。キャンプ教育の中で大切なのは、子ども同士、リーダーと子ども達ひとり一人との関係などをどう作り上げていくかだといえます。人と人がうまくつながっている環境の中にと、子ども達はみな、安心していられ、ありのままの自分で、そして自分らしくいられるのです。この視点からも、今回のキャンプの意義は大きいといえるのではないのでしょうか。また、子ども達ひとりひとりの気持ちや意思を大切にしているキャンプだからこそ、キャンプが子ども達の心をつかむのだと思います。今後も何らかの形で、このようなキャンプが継続されることを子ども達も望んでいるのでは、とふと思います。

最後に、キャンプ場の使用に関して、同時開催のキャンプとの時間調整、交流会の開催など、予期せぬ事態がいくつか生じましたが、大きな問題になることはなく、何とか乗り切ることができたことに、感謝です。



外山真理（東京YWCA青少年育成事業部統括）

日本YWCA被災者支援プロジェクトのメンバーとして、初めて福島県新地町を訪ねたのは4月19日のことだった。太平洋と鹿狼山に挟まれた平野があり、津波被害を受けた面積は町の1/5に当たる約904畝。海岸を走っていたはずの常磐線は姿を消し、駅舎も高架橋が残るのみ。沿岸道路も完全に破壊されていた。ぎりぎり津波の被害を免れた役場の教育委員会で子ども達の被害状況を聞いた。そして、衝撃的な体験をした子ども達は話を聞いてくれる人を求めているという。災害ボランティアセンター準備室も訪ね、YWCAからボランティアコーディネーターを派遣してほしいと切望された。その後、他のプロジェクトメンバーによるニーズ調査を重ね、日本YWCA被災者支援プロジェクトは、災害ボランティアセンターへのボランティアコーディネ



ーターの派遣を決め、各地のYWCAも活動を開始した。名古屋YWCAはテレビ電話で子ども達の話し相手を始め、札幌YWCAは夏休みに母子を札幌に招待した。

そして、東京YWCAが出来ることとして、所有する野尻湖畔の自然に恵まれたキャンプ場で子ども達に楽しい夏休みをプレゼントできないかと、キャンプ場を使える時期はあるか、必要な運営スタッフを得られるか、財源はどうするか、と可能性探りが始まった。6月下旬には何とか出来る見通しまで行き着くことが出来た。新地町教育委員会を訪問し、この計画案は子ども達の求めに合っているのかどうか、内容はどうかご相談した。「新地っ子の夏休み」を巡っては不思議な出会いが数々あったが、この日、偶然にも野尻キャンプのある信濃町の婦人会から子ども達にプレゼントが届いたところだった。詳細に打ち合わせ、教育委員会が小学校をとおり対象生徒全員への告知から申込受付、定員オーバーの際の選考、そして参加者のリスト作成まで請け負ってくださった。

共同募金会の助成金申請、日本YWCAの補助により、財源の目処も立ち、第1回「新地っ子の夏休みプロジェクト」を開いたのが6月末である。それからの1ヶ月半という短い準備期間で、関わってくださった方々には本当にご迷惑をかけた。感謝と共に頭を深くと下げたい思いである。特に3団体から集まった青年リーダーたち、四国から来てくださった小学校の先生の献身的な働きがなければ、子ども達は心から解放されることはなかったに違いない。24時間、子どもたちをとことん受け止めて下さったことに心から感謝したい。誰しもが持っていた何か支援したいという思いがこの無理な計画を実現させてくれた。反省点はいくつもある。趣旨や子ども達の受け止めについてのディスカッション、リーダーストレーニング、キャンプ開催中の無理の無いスタッフ体制など、普段異なる趣旨と方法で活動する団体が一緒に実施する際には不可欠なことばかりである。反省と共に、ぜひ次回に活かしたいと思う。

新地の子ども達は、ひとりひとり実に個性的で、しかも子どもらしいエネルギーを持っていた。震災で抑圧されていた分、今回のキャンプで大爆発したという印象だった。その子ども達が初日のハイテンションから最終日の落ち着いた姿に変化するまでの間にキャンプ体験がある。キャンプを終え、バスで新地町に近づくと子ども達は懐かしさからか、歓声を上げ、身を乗り出して私に無残な姿のままの海岸を指差し、「あそこに僕たちの基地があったんだよ！自転車でいったんだ」と話してくれた。数日間離れたことで、新地町はかけがえのない故郷という思いが強まったのではないだろうか。子ども達の心に帰れる場所が出来たのであれば、幸いである。そして、「子どもの時間」を取り戻し、思う存分遊んだ記憶がこれから先彼らを支えてくれればと願う。



## スタッフ紹介

責任者	寺出壽美子（日本子どもソーシャルワーク協会理事長）
副責任者	久田満（上智大学教授、医学博士／臨床心理士）
マネジメントディレクター	外山真理（東京YWCA青少年育成事業統括）
キャンプ場マネージャー	嶋 結子（元東京YWCAキャンプディレクター）
チーフリーダー	田宮裕美（野尻キャンププログラムディレクター）
キャンプリーダー	岡 雅洋（高松市小学校教諭）
	小島 萌（上智大学大学院生）
	斉藤 崇（精神保健福祉士。日本子どもソーシャルワーク協会）
	佐々木俊英（上智大学大学院生）
	島田彩美（玉川大学学生。日本子どもソーシャルワーク協会）
	西中村希美（東京学芸大学学生。日本子どもソーシャルワーク協会）
	沼田 彩（助産師）
	平端祐里（上智大学学生）
	向井 亮（国際基督教大学大学院生）
	山本真理（看護師）
水泳	平野恵子（東京YWCA野尻キャンプリーダー）
ボート	小林秀雄（東京YWCA野尻キャンプリーダー）
自然	堀尾吉晴（東京YWCA野尻キャンプリーダー）
アーチェリー	土肥怜子（東京YWCA野尻キャンプリーダー）
	大森麻央（上智大学学生）
	平賀羽衣子（上智大学学生）
	美濃綾佳（上智大学学生）
	渡邊大智（上智大学学生）
看護師	佐藤房江
カメラマン	白井裕介
名古屋YWCA「シンチ・ハート・プロジェクト テレビ電話相談」担当	
	朴 亜紀子、馬場詩織
キッチン	佐藤美代子、秋田みどり、片山澄子、長澤幸江、渡千鶴子



## ご協力いただいた機関、団体のご紹介

感謝を込めて

新地町教育委員会

信濃町産業観光課

信濃町教育委員会

日本YWCA被災者支援プロジェクト

名古屋YWCA

社会福祉法人中央共同募金会



## 資料案内チラシ



2011年度  
東京YWCA野尻キャンプ

# 新地っ子の夏休み



長野県にある野尻湖に行くよ！  
野尻湖に突き出た半島全部がキ  
ャンプ場。そこで夏休みの数日を  
過ごそう。  
みんなに会えるのを楽しみにし  
てるよ。

期間◆8月19日(金)～8月23日(火)4泊5日  
場所◆東京YWCA野尻キャンプ場(長野県野尻湖畔)  
対象◆福島県新地町の小学3～6年生 男女30名

(定員を超えた場合は抽選となります)



参加費◆交通費を含め不要です。

お申込◆参加申込書に必要事項を記入の上、7月15日(金)までに在籍している小学校にご提出くだ  
さい。

往復に使う交通機関(変更する場合があります)

新地町 ⇒ 仙台 ⇒ 大宮 ⇒ 長野 ⇒ 東京 YWCA 野尻キャンプ場 片道約5時間  
貸切バス 東北新幹線 長野新幹線 貸切バス

### 説明会を開きます！

「新地っ子の夏休み」に関心のある保護者の皆さまを対象に行います。  
お気軽にご参加ください。

日時:7月13日(水)18:30～20:00  
場所:新地小学校親海ホール

★ご心配な点、不安なことにお答えします。



後援●新地町教育委員会

協力●日本YWCA被災者支援プロジェクト、名古屋YWCA

主催 公益財団法人東京YWCA 青少年育成事業部教育キャンプ課

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11

TEL.03-3293-5466 Email. petau@tokyo.ywca.or.jp



★ プログラム予定★

	8/19 (金)	8/20 (土)	8/21 (日)	8/22 (月)	8/23 (火)
午前	さあ、野尻キャンプ場に 出かけましょう	ネイチャーゲーム 	【選択プログラム】	野外料理 	
午後	キャンプ場の中を探検 	【選択プログラム】 アーチェリー・工作・水遊 び.....	ナウマン象博物館で どんな発見があるか な？	自由に過ごしまし よう	新地町に 帰ります
夜	お楽しみゲーム 	ナイトハイク 星やムササビを 探しに行こう 		みんな楽しく過 ごしましょう	

★泊まるのは東京 YWCA 野尻キャンプ場のゆかりハウス (宿泊棟) です★



YWCAとは⇒Young Women's Christian Associationの略称。キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を促し、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。











**公益財団法人東京YWCA**

101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11

Tel.03-3293-5421 (代表)

Fax.03-3293-5570

HP: <http://www.tokyo.ywca.or.jp/>